

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202494		
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
事業所名	グループホーム カナリアの家 ファミリア		
所在地	長崎県佐世保市白岳町1398－8		
自己評価作成日	平成 27年 10月 8日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 1 月 7 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=4270202494-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 27年 11月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢と介護度の低下に伴い身体介護が増える中、入居者の声に耳を傾け、思いを汲み取った支援に力を入れている。又、家族の面会が少しでも増えるような雰囲気作りを心がけている。又、一緒に働く職員にとっても働きやすい環境作り・信頼関係を作るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの目標を「みんな笑顔でまあるくなる」と掲げ、入居者と職員が共に明るく笑顔で過ごせるよう努めている。自治会にも加入し、敬老会へ参加したり、避難訓練時には地域の方や防火クラブの方が参加して入居者役になっていただいたり、避難時における受け入れ先施設と協力関係を築くなど心強い取り組みができています。永年勤務の職員が多く、代表者は職場環境づくりに配慮して職員の処遇改善にも取組まれ、各種研修への参加を積極的に促すなど、職員にとって働きやすい職場となるよう取組まれていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して	玄関・事務所などに「運営理念」を掲げいつでも職員が確認できるようにしている。	運営理念は玄関や事務所に掲示されている。ホームの目標を「みんな笑顔でまあるくなる」と掲げ、入居者と職員が共に明るく笑顔で過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、施設の行事など積極的に参加して頂くように声かけを行うと共に地域の行事などにも参加するようにこころがけている。	自治会に加入し、敬老会へ参加したり、避難訓練時には地域の方や防火クラブの方が参加して入居者役になっていただいたり、地域の方から協力を得ていることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通し認知症についての理解や支援の方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みはもとより地域の方の意見などを傾聴しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、白岳2組公会堂で開催し、白岳町内会長のほか近隣の方や包括センター、家族、系列グループホームの方などから構成されており、意見などをホームの運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは交流を怠る事のないように情報交換を心がけている。	協力医療機関と共に地域の方に呼びかけて在宅医療やAED講習などについて学習する催しを開催したことがある。入居者で生活保護者の方については市担当者と相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、拘束を行う時は職員・家族も含め何度も話し合いを重ねやもおえないと思われる場合のみ行っている。	入居者のうち安全上やむを得なく身体拘束が必要と判断し、家族から同意を得て実施している方が現在2名いる。該当者は毎月評価を行い、プランにも反映している。尚、身体拘束が常態化しないよう引き続き話し合いを重ね、取組むことを希望する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し職員同士でも十分に注意するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては研修などで学ぶ機会を持ったが施設ではまだ必要性がない為活用したことがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い疑問点や不安な事がないように努めている。又、いつでも尋ねて頂く様にお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はもとより年に2回ほど大きな行事のあとに家族会を開催し意見や要望を聞く機会を持つように努めている。	利用料の持参時や入居者との面会時などを通じて意見や要望等を聞くよう努めている。以前は意見箱を設置していたが、意見書が入ったことはなく、現在は設置していない。	家族や入居者の中には直接意見が言いにくい方もいらっしゃることを考慮し、意見箱やアンケート活用等意見を聴取する方法についてのしくみ作りについて検討することが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や日ごろの会話の中で意見や提案を聞き代表者へ伝えている。代表者は意見の反映に努めている。	管理者はリーダーシップを発揮して、職員に対して厳しいことも含めて指導しながら業務上の改善点などは職員間で積極的に話し合い、取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力・実績などを把握し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりのケアの向上の為、法人内外の研修を受ける機会を作っている。又、研修に関しては不公平にならないように		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて2ヶ月枚に定例会を開催しネットワーク作りや勉強会、又、3ヶ月毎に持ち回りで研修会を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っている事、したい事などに耳を傾け、まずは安心して頂ける様な関係作りから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、して欲しい事などの要望に耳を傾け信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に十分に話を交わし、入居者・家族が必要としている支援を見極めるように努めている。又、変化があった場合でも柔軟に対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に考え、一緒に過ごし支え合う関係になれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の段階で面会や行事参加の大切さ・家族の支えの重要性を話し一緒に支える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人には次回も来て頂ける様に大切に接し、馴染みの場所が近ければ外出する機会を持つように支援している。又、家族の協力も頂ける様に入居者に代わり伝えるようにしている。	入居者の友人が訪問されたり、定期的に地域の美容師の方が訪問や馴染みの方へ手紙の代筆など、馴染みの関係の継続に配慮されていることが窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにマイペースで過ごされているがレクリエーション時などに関わり合えるように言葉かけをしている。トラブルがあった時も工夫して対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されると訪問は少なくなるのが現状ですが、退去時に寄付して頂いた物は大切にしています。又、何かの折立ち寄られた時は職員一同笑顔で応じています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いに寄り添い意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	入所時にアセスメントをし、家族や入居者の意向の把握に努めている。入居者ごとの担当制をとっており、日々の状況を観察し、入居者の情報については申し送りノート等を活用しながら、必要事項は会議で共有し、検討している。尚、入所時のシートで一部未記載の方が見受けられたので、適切に記録を残しておくことが望まれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の暮らしぶりや好きだった事など、入居者または家族に聞き出来るだけ把握するように努めている。入居者の「出来ること・したいこと」を大切にするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝からの挨拶を通して一人ひとりの状態を観察し職員同士のモニタリングを行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議とカンファレンスを毎月行い介護計画の再検討を行っている。	週に1度の訪問看護があり、月に2回の往診時に助言があった場合は申し送りノートに記入し、職員会議での意見を出し合い、プランに反映されている。予防的な観点から排泄時に立位を促したりすることでその方の筋力の維持に配慮されていることが窺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護計画の記録を行い、情報を共有し検討しながら必要であれば変更しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関より月2回の往診・週1回の訪問看護があり日常生活の様子を報告したり、医療面での疑問を相談したりと情報交換を行っている。又、家族の状況にあった対応を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館・大型ショッピングセンターなど、外出する機会を作り楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月2回の往診があり、状態の観察を報告しています。適切な指示のもと受診の支援も行っています。	月に2度の往診のうち1度は全入居者を診てもらっている。受診や往診はホームからの依頼で対応し、職員が付き添っている。入居者の受診情報については家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より週1回の訪問看護があり日常生活の様子を報告したり、医療面での疑問を相談したりと情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努め安心して入院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居と同時に早い段階で話し合いを行い施設で出来ることを説明している。職員も理解して支援に取り組んでいる。	入居時に終末期における対応について家族へ説明している。また、重度化した場合は家族と話し合いを重ね、情報は家族支援記録に記載している。緊急時の対応マニュアルを整備し取り組まれている。看取りの経験が6回ほどあり、緊急時にはまず協力医へ連絡することを徹底し、職員はその対応方法が身につくよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時はまず主治医の指示を仰ぎその状態に応じた対応が出来る様に努力している。又、外部での研修などに参加するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の方を巻きこんでの防火訓練を年2回実施している。終業前には毎日見回りを行い、自主検査表にてチェックも実施している。	避難訓練は年2回実施されており、防火クラブの方など地域の方も参加されている。12月には夜間帯を想定した訓練を実施する予定である。	避難時における居室不在の表示について、既に実施されているとのことであるが、当訪問調査時には一部確認できなかったため、引き続き入居者が避難したことが一目で分かるよう居室出入口への工夫に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	衣服の着脱時にはさっとバスタオルをかけるなど配慮されている。排泄失敗時にもさりげない言葉かけを行い、支援されている。入居者の支援内容を職員間で大声で話さない等プライバシーへの配慮が窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを十分にとり入居者の希望や思いを聞きながら自己決定していただけるように働きかけている。自己決定が出来ない方には思いを汲み取り決定するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に出来るだけ希望に添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや清潔には十分に留意している。外出時には入居者の意見も取り入れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなメニューを尋ねたり季節の物を取り入れるなど楽しめるように心がけている。又、味・彩り・食事形態にも配慮している。準備やあとかたづけなどは高齢化のため出来る方が少ないが出来ることをして頂いている。	献立は職員が考え、夜勤帯の職員が食材を発注して業者が週3回配達している。週2回～3回程度食事作りの担当職員も支援している。入居者の状態に応じて後片付けなどを手伝ってもらうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量には十分注意している。食習慣や摂取不良時には代替を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めている。義歯の洗浄も定期的に行っている。また、家族の協力を頂き歯科との連携をとり定期的に往診・口腔ケアの支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力、排泄パターンを把握し排泄のタイミングに合わせてトイレ誘導や言葉かけを支援している。	その方の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導されている。現在、多くの方はパット又はリハビリパンツを使用している。尚、排尿障害がある方が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態をカウントし個々に応じた排便調節を行っている。食生活の面でも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方、嫌いな方に合わせた言葉かけの工夫をするなど、個々に沿った支援に努めている。曜日・時間帯などは合わせて頂いている。	現在の入浴は週に2回で夏場は週に3回対応されている。温度の好みにも配慮するよう努めている。シャワー浴は随時可能である。異性介助については入居者とよくコミュニケーションをとり信頼関係をつくるよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望時はもとより一人ひとりの状態に合わせて休息する時間を決定している。夜間も快適に安眠できるように室内温度も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個々のファイルに閉じており目的・副作用・用法・用量については十分に理解している。又、症状の変化時は主治医に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加していただいたり、お手伝いをしたり、テレビを視聴したりと変化のある日々を過ごしていただいている。お茶の時間を10時・15時に設定し嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ時間を作り支援している。買い物同伴や図書館など個別支援、家族を巻き込んでの外出や外食なども計画し一緒に支援している。	月に1回程度は外出できるよう支援されている。外食についても秋と春に計画されている。5000円を家族から預かり、入居者の希望に応じて買い物時などで支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人だけ手元に所持しておられますが使う事はなく持っているだけで安心されている。家族よりおこずかいとして預かっていることを把握されたい方は「〇〇を買ってきてください。」と言われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望される時には電話をかけて頂いている。また、遠くに居られる家族様には手紙を書いて頂く様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	厚すぎたり寒すぎる事がないように空調には気をつけている。廊下には行事ごとの壁新聞を掲示したりリビングには華美になり過ぎない程度に季節に合ったディスプレイをしている。	共用空間は空気清浄機を設置している。また、空調の風が直接入居者へあたらないよう工夫されていることが窺える。通路の壁には入居者の写真が掲載された新聞があり、居心地良い空間となるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置きいつでも誰でも使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し入居者が居心地よく過ごせるように支援している。状態の変化に合わせて工夫している。	居室については定期的にはリネンの交換を行い、週3回は清掃している。室温についても適宜調整している。持ち込みについても特に制限していない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、不要な物は置かないように努めている。又、長い廊下を利用して歩行訓練など支援している。		